

第8回 加茂市都市計画マスタープラン策定委員会
議事要旨

日時：令和6年12月23日（月）14：00～

場所：加茂市役所 301会議室

出席者：以下のとおり（敬称略）

区分	氏名	所属・団体名
第1号 学識経験者	松川 寿也	長岡技術科学大学 准教授
	鈴木 孝男	新潟食科農業大学 教授
第2号 関係団体	海津 恵美	七谷さとやまふぁーむ
	佐藤 愛子	えちご中越農業協同組合 経営管理委員
	川崎 大一郎	株式会社 川崎薬品商会
	川上 和哉 (欠席)	有限会社 川上製作所 代表取締役社長
	藤田 和子 (欠席)	特定非営利活動法人 わくわくクラブ 理事長
第3号 その他	片岡 廣夫	公募委員
	笹川 裕子	公募委員
	森田 佑介	公募委員
オブザーバー	安井 和也 (欠席)	新潟県三条地域振興局地域整備部 部長

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 第7回策定委員会の振り返りについて
 - (2) 第3回地域別懇談会の開催報告
 - (3) 実現に向けて（案）について
 - (4) 計画書（素案）について
 - (5) 計画書の表紙について
 - (6) 今後のスケジュール
- 4 事務連絡
- 5 閉会

(1) 第7回策定委員会の振り返りについて

～事務局資料説明～

【意見交換】

(委員長)

・地域別構想の方針図の幹線道路沿線の茶色ハッチについて、景観に関連する色合いとしてそぐわない。水色や緑色などに変更してはどうか。

→ (事務局) 色合いを再検討する。

(2) 第3回地域別懇談会の開催報告

～事務局資料説明～

【意見交換】

・意見なし

(3) 実現に向けて(案)について

～事務局資料説明～

【意見交換】

(委員)

・公共交通のり・デザインに関して、加茂市では高齢者の利用が多く、免許返納者が増える可能性がある。子育て世代は車を所有しているイメージが強いため、高齢者に焦点を当てるのが良い。

・学校の統廃合に伴い、遠方から通学する学生が増えている。友達が増えるのは良いことだが、遊びに行くのが難しい状況である。

→ (事務局) 地域公共交通計画については策定済みであるため、いただいたご意見は担当部局へ周知する。学生の課題については、公共交通活性化協議会の方でも課題とされており、検討が必要である。

(委員)

・加茂駅周辺の賑わい創出について、官民連携の取組が進まないと感じている。学生ベンチャーを推進し、学生のアイデアを実現可能な形で取り入れることで、新しい賑わいを創出できるのではないかと考える。

→ (事務局) 旗振り役がいなければ進まないと考える。まちづくり法人の設立推進なども含めて今後も検討が必要である。

(委員)

- ・平仮名の「まちづくり」はどのような意味合いで使用しているか。
→ (事務局) まちづくりの定義について、記載も含めて再検討する。

(委員)

- ・流域治水プロジェクトの図の旗揚げの色について、黄色と白色で違いはあるか。
→ (事務局) 特に意味はない。色を統一する。

(委員長)

- ・全体的にピンクの枠線がある箇所と無い箇所があり、統一が必要である。
→ (事務局) 統一する。

(委員)

- ・162 ページの主要な取組の体系について、全体構想での目標が4つに対して3つしか記載されていない。4つ目の目標は節が分かれていて、分かりづらい構成である。
→ (事務局) 構成を再検討する。

(4) 計画書 (素案) について

(委員)

- ・都市計画に関する解説書については、「第1章 計画の位置づけと背景」に記載した方が分かりやすい。
→ (事務局) 記載箇所を再検討する。

(委員)

- ・計画書の冊子は市民に配布する予定はあるか。
→ (事務局) 基本的に配布は想定していない。インターネットで公開する。

(委員)

- ・167 ページにある「立地適正化計画の策定イメージ」のポンチ絵は概念図であり、これを加茂市に当てはめると現在の問題が浮き彫りになる。具体的には、崖崩れが山に限定されているが、加茂市ではまちなか再生が進む中で都市のリスクが見えてこない。このため、現段階で新たに発生しているリスクをどう捉え、計画をまとめるかが重要である。
- ・加茂山についても、美しい緑とされる一方で、獣の問題が深刻化している。大型獣の行動圏がまちなかに迫り、土砂災害のレッドゾーンが広がっている。このようなリスクを無視した計画が残ることに対して懸念がある。
→ (事務局) 災害リスクへの対応については、立地適正化計画の防災指針で検討することを想定している。

(委員)

- ・「目標 1 持続的発展が可能なまちづくり」に西加茂地域が含まれていないことが疑問である。バイパスが開通し、広域から人を引きつけるチャンスがあるにもかかわらず、西加茂地域へ呼び込む計画が無い。また、駅周辺の賑わい創出は主体が不明確であり、実現可能性が不透明である。

(委員長)

- ・167 ページにある「立地適正化計画の策定イメージ」について、防災指針のイメージを反映すべきである。
→ (事務局) イメージ図は差し替えを行う。

(委員)

- ・95 ページのイメージイラストについて、河川軸は軸の表現ではなくエリアの表現となっている。軸にするのであれば、もっと長い河川軸を表現する必要がある。また、集落交流拠点は、中山間地の農村の美しい谷の風景を反映すべきである。広場があり、フラットなまちの絵をミニマムに置くだけではなく、土地環境を理解した上で拠点施設のデザインを行うべきである。このようなポンチ絵では地域性が感じられず、寂しいものである。

(委員)

- ・95 ページのイメージイラストについて、集落交流拠点にスーパーマーケットがあるのが気になる。また、中心都市拠点(商店街)についてオープンテラスカフェは一体どのような象徴なのか疑問である。
→ (事務局) イメージイラストは再検討する。

(5) 計画書の表紙について

(委員)

- ・表紙の案について、建物が過度に強調されていて、緑と水などを表現した方がよい。

(委員)

- ・表紙の案について、田園の範囲を広げてほしい。

(委員)

- ・表紙の案について、B案がよい。

(委員)

- ・表紙のタイトルについて、「Kamoshi City Planning Master Plan」となっているが、「Kamo City Planning Master Plan」に変更してはどうか。
→ (事務局) 修正する。

(委員)

- ・表紙の案は B 案がよいが、裏表紙については夕日でまちがオレンジに表現されていたらよい。

(委員)

- ・表紙の案は B 案か C 案がよい。

(委員長)

- ・表紙の案は事務局一任とする。

(委員)

- ・35 ページの公共施設一覧の 21 番で「コミュニティーセンター」の棒（一）が入っており修正が必要である。また、1 ページの「人口減少・少子高齢化の進展」について、「進展」という表現は基本によいことに対して使用するため違和感がある。
→ (事務局) 修正する。

(委員)

- ・75 ページの市街地のあり方について、「市民に許容され得る限られた範囲」というのはどう捉えればいいのか。これから用途を変更する際には市民投票でもするようなニュアンスに捉えられるおそれがある。
→ (事務局) 表現を再検討する。

(5) 今後のスケジュールについて

(委員)

- ・パブリックコメントには今回の意見を反映したものを提示するのか。
→ (事務局) 修正したもので提示する。

(委員長)

- ・計画書の冊子印刷について、ペーパーレスの時代であるが、やはり製本は必要である。
→ (事務局) 検討する。

以上